

合理的な行動 —暑さの中で想う—

食料・環境領域主任研究官

古橋 元

コラムなのでよしなしごとに思いを巡らせてみたい。日々の研究と業務に追われながら、足早に季節が過ぎていく。ふと気付くと傘を差して雨雲を観る機会が増え、蒸し暑さを抱えた梅雨が訪れていた。日本でも蒸し暑さを感じる時期になると、東南アジアの照りつける原色の太陽とスコール後の蒸れて息苦しさを感じる暑さを思い出す。

日本人は、真夏の暑い陽射しが照る日中でも汗を流しながら働き、その姿が頼もしく映る。しかし、東南アジアの人々は太陽が照る午後の時間帯は比較的動きが鈍く、休憩しているときもある。日本人から観ると、日中にも動いて仕事をした方が良いのではと思ってしまう。

翻って、現代の日本では朝の動き出しが比較的遅い。最近では“朝活”という言葉があるようで、働く人を中心にブームがあるらしいが、意味としては朝早起きして何かしらの活動に励むということらしい。“早起きは三文の得”といわれる諺の現代風アレンジということだろうか。朝活はブームとしても、日本の現在の朝の動き出しはそれ程、早くはない。

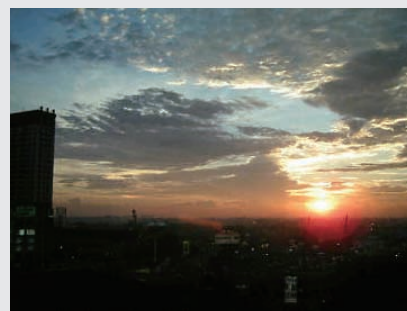
しかし、東南アジアの人々の朝の動き出しは早い、7時前から仕事を始めている人もいる。また、彼らは朝にシャワーを浴びて仕事に出かけることが多い。東南アジアを訪問した時、日本人は朝、シャワーを浴びる習慣はあまりないと話をしても、彼らの反応は薄く、なぜ朝にシャワーを浴びないのかと怪訝な顔をする。

とはいえ、東南アジアの人々の朝の早さが理解不能と言うことではない。東南アジアは熱帯地域であり、熱帯夜と朝から気温が高くなることもあり、朝起きる時間が早くなり、比較的気温が低い朝方に仕事などを始めた方が効率的だからだろう。朝のシャワーも寝起きの段階で、汗を多くかいているため、シャワーを浴びてリフレッシュするためだろう。その感覚は日本でも真夏の朝、シャワーを浴びたいとの衝動に駆られる感覚と一緒だ。合理的な行動様式にも思える。

また、東南アジアの人々が日中の太陽が照りつける時間帯は比較的動きが鈍く、休憩していることも理解は不能ではない。日本人が勤勉で東南アジアの人々が勤勉でないからということでもない。や

はり熱帯地域であるが故に、太陽の陽射しはあまりにも強すぎ、太陽の恩恵を受けすぎてその時間帯に動き回することは熱中症や熱射病を引き起こしかねない。日陰でおとなしく休むことが合理的であるとも思える。それでも近年は効き過ぎる空調のお陰で、東南アジアの人々も日中に熱心に動き回ること増えてきている。

これらの行動様式の違いは、熱帯地域であることや暑さのためだけが理由ではないが、表面的には理解しがたいことであっても、それぞれの人々にとって、意識しているかは別として、合理的な論理の上に成り立ったものであろう。それぞれの行動の原因を突き詰めることは困難を伴うが、動機と理由は存在している。国や民族の間の違いだけでなく、日本人同士でさえ存在するそれぞれの差異も、多様性かつ合理的な論理の上に成り立っていることを考慮すれば、互いの理解は進むだろう。一見して国および地域間・世代間・男女間などの多様な差異は、動機と理由が見えてくることによって、それぞれの言動が合理的に映り始めるかもしれない。動機が見えてくれば互いに理解が進むだろうか。私もこれから努力して動機と理由を探してそれぞれの差異を理解していきたいと思う。



ジャカルタの夕陽（2006年）